

「阿部フロンテクス」に社名変更

一貫受託型転換で価格競争脱却

新社名のロゴを披露する
阿部社長



複数工程を1社で担う一貫受託型ビジネスへとかじを切り、価格競争からの脱却を図る。

新社名は、全社員が出席した経営計画発表会で公表した。フロンティア（開拓者精神）、テクニック、テクノロジーを組み合わせた造語「フロンテクス」に、設立から続く「阿部」の名を冠した。溶断、曲げ、溶接などの職人技と、レーザー加工やマシニング加工など先端技術を融合

設立75周年を迎えた同社は現在、切板部門の発寒工場、曲げ・溶接加工部門の石狩工場、

昨年9月に事業譲受した三和マシニング工場を稼働する。厚板加工からマシニングまで1社で完結する企業は「道内で唯一」とみており、阿部社長は「阿部でなければならぬ仕事へ経営資源をシフトする。唯一無二のエンジニアリング集団になる」と集まった社員に方針を示した。

阿部鋼材

厚板溶断、鋼材曲げ

加工が主力事業の阿部

鋼材（本社・札幌市西区、社長・阿部大祐氏）は、7月1日付で社名を「阿部フロンテクス」に変更し、新たな経営戦略を打ち出す。鋼材加工主体の事業から、

クノロシーを組み合わせた造語「フロンテクス」に、設立から続く「阿部」の名を冠した。溶断、曲げ、溶接などの職人技と、レーザー加工やマシニング加工など先端技術を融合

し、新たなものづくり企業を目指す意思を込めた。今後は、技術力と一貫受託体制を生かした戦略に転換する。主軸の建築用切板は本州企業との価格競争が激しく、技術力が価格に反映されにくいのが課題だった。今後は溶断、曲げ、溶接、組み立て、マシニングまでワンストップで受託できる利便性と高い技術力を組み合わせて提案し、大手ゼネコンや機械メーカー、プラントメーカーなどからの受注拡大を目指す。